

## クラウドファンディングで カフェを作ったわけ



皆様のご支援のおかげで、7月9日から8月23日の45日間のレディフォーというクラウドファンディングを使ったチャレンジは無事成功に終わり、目標金額の150万円を超え108%達成でき、翌日の24日、無事「たけの子Cafe」をオープンすることができました。小さな小さなカフェですが、これからは本場の意味でのスタートです。地域に根差したカフェにしていきたいと心を新たにしています。

たけの子が目指しているのは、『崖の上のポニョ』の舞台になったような、老人ホームと保育園が隣り合わせなっていて、大人は子どもから活力と生きがいを感じ、子どもは大人から知恵と慈しみを受けられるような場所を造ることです。

わたしたちの定款の目的には「この法人は、福島県と山形県に住む18歳未満の子ども達が自然の中で豊かに遊び活動し、人として大切な五感を磨き生きる力を育みその子らしく成長していくことを見守り、その子どもたちを取り巻く大人も子どもと共に成長することのできる地域社会の実現に寄与する」とあります。民間団体の時から数えて、今年で創立10周年になります。当初は山形県という視点はなかったものの、NPOになる前からわたし達はこの目的に添って活動してきました。

2010年の東日本大震災による原発事故以降、わたし達は福島市から米沢市へ移動して野外保育を継続し、その移動費用は原発事故を止められなかった大人の責任として現在まで無料で行っています。そして、これまでわたし達を支えてくれたのは、

大口寄付者ではなくて、地域社会の市民の皆さんです。そうした支援が社会を変えていくとわたしは信じています。カフェを中心に人が集まり、本音で語り合ったり、語らなくても居場所があったりする、そんな場所にしたかったので。

「安全な食を」と言えるようになるまで、震災から8年かかりました。ようやく、人として普通の要求をして、心新たに地域コミュニティを造っていける、そんな設立10年目の青空保育たけの子です。

今はまだ園児がいて、保育を続けていられます。でも、いつまで福島から通わせてくれるご家庭が続くのでしょうか。たけの子七不思議のひとつは、3学期が終わるまで翌年度の入園者がなく、このまま終わってしまうのかなと思いきや、ちゃんと毎年入園式が行われているということ。ニーズはあるのだなとも思われます。

できることなら、活動地の米沢市の皆さんにこそ愛される場所になりたい。それが以前からの宿願です。わたし達の園は内外から高い評価をいただいています。しかし、実際問題、園児が集まらなければ青空保育たけの子は消えてしまいます。そうならないためのカフェなのです。

そして、それを、クラウドファンディングで行うことで、わたし達のチャレンジを多くの方々に知っていただき、ご支援・応援いただくことが、今回の大きな意味のひとつでもあります。

このカフェ作りは昨年開催した2017年度の総会の今後の事業計画の中で承認され、助成



団体から研修費用やコンサルタント費用をいただきながら、1年以上かけて準備を進めてきました。

過去にクラウドファンディングに2度挑戦して、その苦労が痛いほどわかっているのですが、できれば、何か別の方法で思っていたのですが、他の助成金申請は通らず、最終的に5月末に挑戦を決めました。

昨年の民泊開始費用300万円を皆さんからご支援いただいたばかりでしたので、正直達成できる気がしませんでした。でも、途中からいけるような気がしてきました。達成目安からみた達成率は低迷したままでしたが、何かわたしの心の中で変化が起きたのは事実です。8月15日の達成目安50%を超えたあたりからは順調に達成していきました。

あれはなんだったのでしょうか。8月8日に子どもたちと川で遊んでいた時に「彩雲」をみたからでしょうか。滅多に見られない自然現象を見た時に「ああこの雲に気づいている人は何人いるのだろうか。こんなに美しい雲なのに、きつとほとんどの人は暑い日差しをさけながら下を向いているのだろうか」と思ったのです。

美しいもの、感動するもの。神様が送ってくれているメッセージに気づくことができる時、人は何かその人の力以上の何かを得ることができるようになります。 辺見妙子

寄付や支援をいただいた 方々7・8月 順不同

7月 じゃがいも 手塚すみ子様 スイカ 星啓一郎様  
鍋、絵、イス、座布団 伊藤忠二様

8月 トマト、ゴーヤ、ナス、シシトウ、ピーマン

星啓一郎様  
かぼちゃ 中西 絢子様

